

気をつけよう 海のキケン生物

本格的な沖縄の夏到来です。夏といえば、やはり「海」。しかし沖縄の美しい珊瑚礁の海に生息する生き物の中には、毒をもつキケンな生物も多くいます。沖縄の海では、年間300人以上がキケン生物の被害にあっています。特に「ハブクラゲ」による被害は、全体の半数近くを占め、これまで、三人の子供が亡くなるなど、命に関わる事故も発生しています。

7、8月は、要注意！

ハブクラゲによる被害は、7、8月に集中しています。その理由は、7月中旬からハブクラゲが、人体に影響を及ぼす程度に成長すること、また海水浴を楽しむ方が1年で一番多い時期とが重なるからです。多くの被害は浅瀬で発生しており、県衛生環境研究所の調査結果では、ハブクラゲは夕方から夜間に活動し、朝方から日中は岸近くの浅瀬で過ごしていることがわかってきました。浅瀬では、子供たちが泳いでおり、十代以下の被害者が約60%を占めています。また、子供は体が小さいので刺されてしまうと、体内に占める毒の割合が大人に比べて高くなり、重症化する傾向があります。

刺されないためには……

クラゲネットの中で泳ぐことが一番です。ネットはハブクラゲが入りにくい構造になっており、安全に遊泳を楽しむことができます。（まれにネットの中にハブクラゲが侵入してしまうことがあります。）

見かけたら、ビーチの監視員に伝えましょう。）

また、ネットのない場所で泳ぐ場合は、ウェットスーツや長袖のシャツ、スパッツなどを着用し、肌の露出を少なくしましょう。ハブクラゲの被害を最小限に留めることができます。

万が一刺されてしまったら

すぐに海から上がり、助けを呼びます。そのとき、刺された部分は絶対にこすってはいけません。こすると未発射の刺胞に刺激をあたえ、さらに刺胞が発射し、毒が注入されてしまいます。

次に、酢（食酢）を30秒ほどたっぷりかけます。酢には、刺胞の発射を止める働きがあるので、必ず触手を取り除く前にかけて下さい。

ハブクラゲ以外の毒をもつ海の生き物



ハブクラゲによる刺し傷例

ハブクラゲの他にも毒をもつ生き物がいます。カツオノエボシやウンパチイソギンチャクなども数件から十数件の被害が発生しています。それぞれの生き物の特徴や被害にあった場合の応急処置を覚え、もしもの時に備えましょう。

主な海のキケン生物

カツオノエボシ

【特徴】

青白い浮き袋をもち、そこから青く長い触手が伸びている。刺されると電気が走ったような強い痛みを感じる。別名「デンキクラゲ」と呼ばれる。



【応急処置】

- ①すぐに海から上がり、海水をかけて、触手を洗い落とし、氷や冷水で冷やす。
- ※触手に真水、アルコール、酢をかけると未発射の刺胞が発射される危険性があるので、絶対にしないこと。

ウンパチイソギンチャク

【特徴】

おわん型で褐色の海藻や岩のような姿をしており、見つけにくい。



【応急処置】

- ①すぐに海から上がり、海水をかけて、刺胞球を洗い落とし、氷や冷水で冷やす。
- ※1刺胞球に真水、アルコール、酢をかけると未発射の刺胞が発射される危険性があるので、絶対にしないこと。
- ※2必ず医療機関で診てもらうこと。

アンボイナ

【特徴】

殻の大きさが10cmほどの大きな巻き貝で、赤茶色の網目模様がある。体の中に毒銚をもっている。神経毒なので刺されても痛みはほとんどないが、すぐに体がしびれ、溺れる危険性がある。



【応急処置】

- ①すぐに海から上がり、助けを呼び、安静にして、毒を口で吸い出しながら、急いで医療機関で治療を受ける。

ヒョウモンダコ

【特徴】

体長は10cmほどの小さなタコで、興奮すると青い円形の模様が目立つ。足のつけ根にある口で咬み、毒はフグと同じ毒（テトロドトキシン）をもっている。



【応急処置】

- ①すぐに海から上がり、毒をしぼりだす。
- ②安静にし、急いで医療機関で治療を受ける。
- ※口で毒を吸い出すのは、非常に危険なので、絶対にしないこと。

ミノカサゴの仲間

【特徴】

大きな胸びれがあり、背びれ、腹びれ、尻びれには毒がある。刺されると大変痛む。



【応急処置】

- ①棘が残っていれば、目に見える大きな棘は取り除く。
- ②傷口を清潔に保ち、医療機関で治療を受ける。
- ③痛みを和らげるため、患部を40～45度のお湯につける。

オニダルマオコゼ

【特徴】

浅いサンゴ礁などにいることが多く、岩にそっくりで、見つけにくい魚。じっと動かないため、気づかずに踏みつけてしまうことがある。



背びれに棘があり、ゴム底の靴を貫通するほど堅硬。毒は猛毒で、刺されると激しい痛みやしびれがある。

【応急処置】

- ①すぐに海から上がり、棘が残っていれば、目に見える大きな棘は取り除く。
- ②傷口を清潔に保ち、医療機関で治療を受ける。
- ③痛みを和らげるため、患部を40～45度のお湯につける。

ゴンズイ

【特徴】

浅い岩礁や砂地の浅い海に生息し、集団で行動する習性がある。背びれと胸びれに毒棘があるので、釣れたゴンズイを釣針から外す時は、注意する。刺されると数日間激痛が続くこともある。



す時は、注意する。刺されると数日間激痛が続くこともある。

【応急処置】

- ①棘が残っていれば、目に見える大きな棘は取り除く。
- ②傷口を清潔に保ち、医療機関で治療を受ける。
- ③痛みを和らげるため、患部を40～45度のお湯につける。

ガンガゼ

【特徴】

浅いサンゴ礁や岩場などに生息し、大型のウニで、細長い棘をもち、刺されると激痛が続く。棘は折れやすいため、折れた棘が体内に残っていることもある。



【応急処置】

- ①棘が残っていれば、目に見える大きな棘は取り除き、医療機関で治療を受ける。
- ②痛みを和らげるため、患部を40～45度のお湯につける。